

## B-2: 研究経営・戦略・IR

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 13:20-14:50 B202(2階)

### 研究の発展につながる評価とは―「責任ある研究評価・測定 (Responsible Metrics)」とURAにできること―

欧米においては、サンフランシスコ研究評価宣言 (San Francisco Declaration on Research Assessment, DORA、2012年)、ライデン声明 (The Leiden Manifesto for Research Metrics、2015年)、など、既存の計量書誌学に基づいた研究評価の手法を問い直す議論が成熟してきています。いずれも、指標による定量的評価の意義を認めつつも、それが研究内容への定性的評価と補完的な関係にあることを明記し、研究活動の多様性への対応を促す内容となっています。そのうちDORAは、その目的のために資金配分機関、研究機関、出版社、研究者ができることを明記しているのが特徴です。

一方、研究評価手法としてピアレビューを重視してきたイギリスでは、ライデン声明と同じ2015年に、The Metrics Tideという報告書が出され、それに基づいて「責任ある研究評価・測定 (Responsible Metrics)」という概念が広まりつつあります。報告書の冒頭では、自殺者まで生んだ悲劇的な事例を挙げ行き過ぎた指標による評価への警鐘が鳴らされ、関係者が重い責任とともにこの報告書を編んだことが伺われます。

セッションに参加するケント大学のサイモン・ケリッジ氏は、この報告書の執筆に加わり、その後、自身の大学で、このResponsible Metricsの原則を様々な局面で活用したり、DORAへの署名を大学執行部に促すなど、具体的な行動を取っています。また、ビデオメッセージで参加するラフバラ大学のエリザベス・ガッド氏は、The Metric Tide報告書刊行後の2017年、いち早く研究機関としてResponsible Metricsに賛同するポリシーを発表し、この分野の議論を積極的にリードしています。

大学改革の流れで検討が進む研究評価指標と関連付け、研究の発展につながる評価のために求められること、そのためにURAにできることについて、人文社会系URAネットワーク幹事校、大阪大学川人よし恵氏、琉球大学押海圭一氏からコメントを得て考えます。なお、本セッションは、人文社会系URAネットワーク幹事校(大阪大学、筑波大学、琉球大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、横浜国立大学)と共同で実施します。

## オーガナイザー

佐々木 結: 京都大学 学術研究支援室(KURA) URA



兵庫県川西市役所、神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程、国際協力機構(JICA)インド事務所を経て2016年から現職。海外出版など人社系研究の海外に向けた可視化への取組みや人社系研究評価の動向調査、外国人研究者支援など、言語や文化の壁を超える研究の支援に取り組む。博士(政治学)。

川人 よし恵: 大阪大学 経営企画オフィス研究支援部門  
チーフ・リサーチ・アドミニストレーター



民間企業で行政広報やまちづくり等に携わりながら、コミュニケーション企画とその実践の経験を積んだ後、2010年4月より大阪大学において研究と社会をつなぐ業務等に従事。現在は、人文・社会科学系の研究活動可視化手法(指標)の検討支援および学金連携事業開発などを担当。また、大学と社会の関係のあり方について、エンゲージメント概念に着目しながら考察を深めるべく、大阪大学大学院工学研究科博士後期課程で研鑽中。

押海 圭一: 琉球大学 研究推進機構 研究企画室  
主任リサーチ・アドミニストレーター



2011年より大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所にて研究推進、研究IR、国立大学法人評価業務などを担当。2019年4月より現職。URAとして琉球大学の研究推進に尽力しながら、研究(人文学、社会科学、学際などを含む)を推進・発展させるために本当に必要・有効な評価とは何か、ということの日々考えています。日本評価学会認定評価士。法務博士(専門職)。

講演者

Dr Simon Kerridge : University of Kent, UK  
Director of Research Services



リサーチマネージャー歴25年のケント大学研究サービス部長。プレ、ポスト、評価、IR、経営戦略全般をマネージ。前ARMA会長(現顧問グループメンバー)、NCURAグローバル担当特別委員会委員など歴任。2015年にイングランド高等教育財政協議会(HEFCE)が刊行した独立報告書The Metric Tideの共著者であり、現在、INORMSのRAAAP(『専門職としてのリサーチアドミニストレーション』プロジェクト)タスクフォースリーダー。博士(Electronic Research Administration)。

Dr Elizabeth Gadd : Loughborough University, UK.  
Research Policy Manager (Publications)



ラフバラ大学研究政策マネージャー(出版)。INORMSの研究評価ワーキンググループの議長、ARMA研究評価分科会の共同チャンピオン。Responsible Metrics(責任ある研究評価・査定)、著作権およびオープンアクセスの問題について、ブログ「The Bibliomagician」から積極的に発信、Lis-Bibliometricsフォーラムのチェア。ラフバラ大学は、The Metric Tide報告書刊行後の2017年、いち早く機関としてResponsible Metricsに賛同するポリシーを発表したことで話題になる。博士(著作権と学術コミュニケーション)。